

「女性政治家はマスクで不利に」世界で初めて科学的検証 ～外見が政治家の支持に与える性差を発見～

ポイント

- ① マスク着用で政治家の印象が変化
- ② 女性政治家のみ支持が低下する傾向を統計的に確認
- ③ 女性候補の選挙戦の進め方に大きな社会的示唆

概要

コロナ禍では、政治家が公の場でマスクを着ける場面が大幅に増えました。しかし、政治家がマスクを着けたときに有権者がどのような印象を持つのか、またその影響が女性政治家と男性政治家で異なるのかについては、これまで十分に分かっていませんでした。特に日本では、日常的に多くの人がマスクを使用する一方で、政治家の評価との関係は明らかにされておらず、この点を解き明かすことが求められていました。

今回の研究では、女性政治家はマスクを着けると支持が下がる一方で、男性政治家には同様の影響が見られないという新たな傾向を明らかにしました。

九州大学大学院経済学研究院の室賀貴穂准教授と、ダートマス大学政治学部の Charles Crabtree 助教授の研究グループは、全国約 1,500 人を対象に調査実験を実施し、政治家の写真（マスクあり・なし）に対する評価を分析しました。その結果、女性政治家がマスクを着用した場合には支持が低下する一方、男性政治家では評価に大きな変化が見られないことが分かりました。これらの結果は、日常的な行動であるマスク着用が、政治家に対する性別による印象の差につながる可能性を示しています。

今回の知見は、コロナ後の選挙活動を検討するうえで重要な示唆を与えるものです。特に女性政治家は外見による不利を受ける可能性があるため、選挙活動におけるコミュニケーション方法の工夫や、必要な支援策を考えていくことが求められます。今後は、マスクが印象に影響する理由（表情の見え方、声の聞こえ方、性別に対する社会的期待など）をさらに詳しく解明し、公平な選挙環境づくりに貢献することが期待されます。

本研究成果は、国際学術誌「Japanese Journal of Political Science」に 2026 年 1 月 8 日（木）に掲載されました。



研究者からひとこと：

今回の研究は、「見え方の違い」が、女性政治家に不利な影響を及ぼす可能性を示しました。マスクの着用という小さな行動でさえ、性別による期待が反映されることがわかります。この成果を踏まえ、多様な立場の人々が活躍できる社会の実現に向けて、今後も実践的な研究を進めてまいります。

【研究の背景と経緯】

新型コロナウイルスの流行により、世界各地で政治家が公の場でマスクを着ける機会が大きく増えました。しかし、こうしたマスク着用が、有権者からの評価にどのような影響をもたらすのかについては、これまで十分に分かっていませんでした。

日本では、パンデミック以前から市民のマスク着用が日常的であった一方で、政治家がマスクを着けた際にどのような印象変化が起きるのかを体系的に検証した研究は多くありませんでした。

そこで本研究では、マスク着用が政治家の支持や印象に与える影響、さらにその効果が女性政治家と男性政治家でどのように異なるのかを明らかにすることを目的に分析を行いました。

【研究の内容と成果】

本研究では、全国から抽出した約 1,500 人の回答者に、

- ・ マスクを着けた政治家
- ・ マスクを着けていない政治家

の写真を提示し、それぞれの政治家に対する支持度や印象を評価していただきました。

評価項目には、支持度に加え、魅力・有能さ・知的さ・強さ・信頼性など、一般の方でも直感的に判断しやすい指標を用いました。分析の結果、以下の特徴が明らかになりました。

1. 男性政治家は、マスク着用による支持低下が見られない

男性政治家については、マスク着用によって支持が統計的に低下することはありませんでした。また、魅力・有能さ・知的さ・信頼性といった印象評価についても、有意な悪化は確認されませんでした。

むしろ、有能さや賢さといった一部の指標では、マスク着用によりわずかに評価が上がる傾向も見られました。

2. 女性政治家は、マスク着用により支持が低下する

一方、女性政治家については、マスクを着けると 支持が統計的に有意に低下することが分かりました。

ただし、この支持低下は魅力・有能さ・知的さ・強さ・信頼性といった個別の印象評価が下がったためではありません。これらの印象指標には、明確な悪化は見られませんでした。

つまり、女性政治家の場合のみ、理由が特定しきれないまま「支持だけが下がる」という特徴的な現象が生じていることが示唆されます。

また、この男女差は統計的に有意であり、マスク着用が性別によって異なる影響をもたらしている可能性があります。

この結果は、コロナ以降の選挙活動にも重要な示唆を与えます。街頭演説や施設訪問、有権者との交流など、マスク着用が避けられない場面では、**女性候補が不利になる可能性**があります。女性政治家の数が依然として少ない日本において、公平な競争環境を考えるうえでも重要な知見といえます。

【今後の展開】

研究チームでは、今後も「なぜマスクが女性政治家に不利に働くのか」について、さらなる分析を進める予定です。表情の見え方や声の聞こえ方、性別による期待の違いなど、さまざまな要因を検討し、公平で効果的な選挙環境づくりに貢献できる知見を提供してまいります。

【論文情報】

掲載誌：Japanese Journal of Political Science

タイトル：Are voters less likely to support politicians when they wear face masks?

著者名：Kiho Muroga and Charles Crabtree

D O I : 10.1017/S1468109924000082

【お問合せ先】

<研究に関すること>

九州大学 大学院経済学研究院 准教授 室賀貴穂（ムロガキホ）

TEL：092-802-5516

Mail：kiho.muroga@econ.kyushu-u.ac.jp

<報道に関すること>

九州大学 広報課

TEL：092-802-2130 FAX：092-802-2139

Mail：koho@jimu.kyushu-u.ac.jp